

有元容子

作品の周辺 2009年

2009年は1月「両洋の眼」展における50号「里山の雲」の出品に始まり、4月東京アートフェア、10月の個展などでの発表を入れ約25点の日本画作品を制作した事になる。

テーマは昨年から続く瀬戸内海の島々や山、それに生活の中にある果物や花などである。

前回と比較して少し色合いが濃くなった感があるが、海の色などは全体のバランスを見ながら、かなり自由に描けたと思う。

今回はまた陶芸作品も制作したのであるが、生まれ故郷の島を象徴する大きな煙突を何か良い形で表現したいとずっと考えていたところ、ふと、煙突なのだから煙が出るもの、という連想からうまく形がまとまり、小さいながら「工場」というタイトルの香炉を作った。実際に香を焚くと良い感じに煙が出る。

家庭雑器とは別の意味でこのような作品も少しずつ作っていきたいと思っている。



工場

里山の雲 80.3×116.8

島 53.0×65.1

静かな時間 53.0×45.5

多島海 53.0×45.5

いちぢく 10.0×30.0

肩にかかる雲 72.7×90.9

浮かぶ湖 22.0×33.3

ホカリ 15.8×22.7

クレマチス 50.0×10.0

蓮 50.0×10.0

工場

工場

© Yoko Arimoto